

意見照会の結果報告

Q1,予測精度の具体的な目標設定

波形立ち上がり時の適合度において、新たな指標NS・EPが追加されているが、この指標を追加する意味は？また、補足説明資料が添付されていないので、算出方法や指標の範囲が何を指しているのかが不明

A1, NS,EP についてですが、当初指標範囲を設定するために検討を行っていましたが、範囲決定に至っておりません。よって、チェックリストから削除させていただきます。

Q2,水位・流量観測の検証

河床形態の分類による抵抗則の確認について、整備方針等にて設定している τ^* は粗度係数に関係する定数と考えているが、あえて τ^* も検討する必要性が不明。また、 τ^* の算定方法は？（実際の洪水時に河床波等の影響を控除した τ^* は計測不可能だと思いますが・・・添付の理論式で整理するのでしょうか？）

A2, τ^* の算出目的は、河床形状の変化を予測システム上で考慮すべきかを判断するために算出します。 τ^* の算定方法は理論式となります。なお、変遷河床であることがわかった場合、予測システム上でどのように計算に組み込むか河川の特性を考慮しながら、検討を行うしかありません。

Q3,複数洪水による検証

システム運用後の実洪水が少なく、過去の洪水でしか十分な精度検証が出来ないので、そこをクリアできるチェック方法がないでしょうか？

A3, 実洪水の特徴を踏まえて、その洪水で精度確認出来る項目にて検証を行ってゆく。

Q4,システムのチェックの際、システムの情報開示の程度によって発生する問題

問題①システム構成図、プログラム一覧が公開されていないため、各プログラムの処理内容等が把握できない。

問題②業者の独自フォーマットにて中間処理しているため、他業者でその内容をチェックすることが出来ない。

問題③オンライン接続されているシステムをラインオフするにもプログラム等改造が必要

問題④予測雨量を実測雨量に入れ替えて予測計算を実施するにも入力部のプログラムの改編が必要。

問題⑤フィードバック機能のプログラムの改変については、開発業者の著作人格権の放棄または、改変の同意が必要ではないか。

対応策

システムの構成等について事前に把握し、誰でも内容が把握できるように事前にチェックが必要。さらに、プログラムの開示が必要である場合は、開発業者の協力が得られるかどうかを事前に確認する。